



# 歌の力を活用し

## 英語を身近に

～相互理解を図り、幸せに生きるためのツール～

歌の力活用し  
英語を身近に

村岡英治50 中学校教員

(玉名市)

今私が勤務している荒尾四中で、ビートルズがひそかなブームとなりつつある。きっかけは英語の授業で歌を取り上げたこと。授業で勉強した文法事項が歌のフレーズにもあり、子どもたちは休み時間に自然に口ずさんでいる。英語学習への一つの入り口や動機付けとなるとともに、国境や世代を超える歌の力のすごさを改めて実感した。

さて、7月17日付本紙

の新生面に「グローバル化を生き抜くためとの理屈は分かるが、こどもも英語、英語と言われると違和感が募る」とあったが、果たしてそうだろうか。

私は英語は相互理解を図り、幸せに生きるための大切なツール(道具)だと考えている。義理の妹はドイツ人と交際。英語がコミュニケーションの手

段の一つであった。つきあい始めの頃、妹は、中学

・高校で学習した英語を一生懸命勉強し直していた。そのかきもあり国境

を超えて結婚となった。

妹の娘は、日本語とドイツ語に加え英語までも

はどうだろうか。

同時に学び、ドイツでの生活や帰日した時に使いこなしている。実家で皆が勢ぞろいした時には、3カ国語が入り交じる小さなグローバル社会となる。私はドイツ人の義理の弟と、原子力発電や世界の労働時間などについて英語を通じて意見を交換し合うこともある。

国や県では英語によるコミュニケーション能力を育成するために、英語教育のさらなる充実を図る。そこで、県民が英語を身近に感じるよう、県でもささやかなビートルズブームを起こしてみ

てはどうだろうか。

は

は

は

は

は

は

は